

学校から美術館に鑑賞を申し込むにはどうすればいいですか？



① ふくやま美術館までお電話ください。

TEL : 084-932-2345 (火~日曜の8:30~17:00)

② 団体観覧申込票にご記入のうえ、メールまたはFAXにて提出してください。

メール : art@city.fukuyama.hiroshima.jp FAX : 084-932-2347

←団体観覧申込票

- ふくやま美術館ホームページ（下記URL）よりダウンロードしてください。

<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

左側の **団体観覧のご案内** をクリック



- 学校名、観覧日、人数、学年、ガイドの有無など必要事項を記入し、メールまたはFAXにて提出してください。その後、内容確認の連絡をさせていただきます。
- 申込み完了後、当日の日程、鑑賞方法（内容）を確認するため、美術館担当者が電話で事前にお尋ねをいたします。

③ 「観覧料減免申請書」を美術館に提出してください。

- 小・中学校の先生が授業の一環として観覧する場合、事前に学校長から申請書を提出していただくと観覧料免除となります。（高校生以下の観覧料は無料）
- 申請書は、ふくやま美術館ホームページよりダウンロードしてください。

※展示室内の状況(混雑時)などによっては、ワークシートをつかった別の鑑賞を提案させていただくこともあります。  
 ※お申し込み日程については、別紙の団体受入可能日をご覧ください。  
 ※受入については、既に他団体の対応予約が入っている場合や、行事などによって日程を調整させていただく場合もあります。  
 ※鑑賞方法については、『10歳の君へ よこそ美術館プロジェクト』と、この鑑賞プログラムとは異なります。

◎ふくやま美術館

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号  
 TEL 084-932-2345 FAX 084-932-2347  
<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

休館日 月曜日(祝休日の場合は開館、その翌日は休館)、年末年始  
 開館時間 9:30~17:00

観覧料 所蔵品展／一般310円(250円) ※( )内は有料20名以上の団体料金  
 ※特別展の観覧料は別に定めます。  
 ※特別展・所蔵品展ともに高校生以下無料。

交通アクセス

- ・山陽自動車道 福山東インターより車で20分
- ・JR福山駅福山城口(北口)から西へ400m

駐車場

- ・市営駐車場(68台)
  - ・バス駐車場(5台)
- ※申込み時にお伝えください。



\*来館にあたってのご注意\*

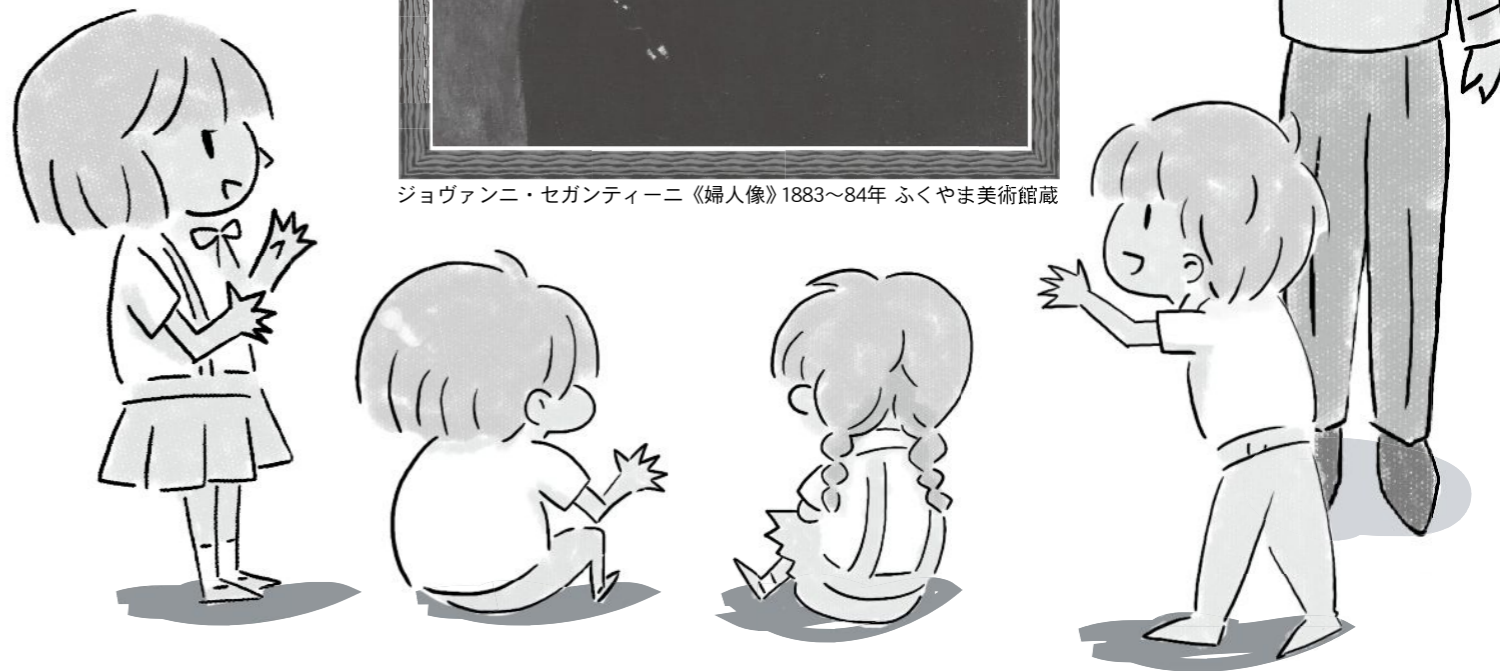
- ・筆記具は「鉛筆」を使ってください。ノートなどに書き込む場合は、壁や展示台にあてて書き込まないようにしてください。
- ・撮影は、受付に申し出て「腕章」を着用いただきますと可能です。ただし、フラッシュ、三脚は使用できません。
- ・事前に「作品にはさわらない」ことを児童・生徒にお伝えください。

2024年度 ふくやま美術館 美術鑑賞推進事業  
 たのしい鑑賞プログラム

〈申込のご案内〉



ジョヴァンニ・セガンティーニ《婦人像》1883~84年 ふくやま美術館蔵





## 美術館で美術作品を鑑賞しましょう！

この鑑賞プログラムは、児童・生徒が作品を楽しく鑑賞する中で、「美術作品と向き合う心をはぐくんで欲しい」と願い、実施するものです。

学習指導要領の目標には、「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」ことと明記されています。また鑑賞の指導については、「地域の美術館などを利用したり、連帯を図ったりする」ことが推奨されています。

作品との素敵な出会いが、児童・生徒に新たな「発見」や「感動体験」をもたらし、貴重な心の財産となるでしょう。



## 美術館には、どんな鑑賞プログラムがありますか？

### 1. 対話型の鑑賞（観察力・コミュニケーション力を高めるコース）

児童・生徒と、学芸員・ボランティアが対話を通じて、ひとつの作品をじっくり鑑賞していく方法です。この鑑賞方法では、児童・生徒がそれぞれ感じたことを考えて、言葉にすることを促します。作品を細かく見る観察力や思考力のほか、コミュニケーション能力の向上も図ることができます。

※実施時は、10名程度のグループに分かれて鑑賞します。

### 2. ガイド形式の鑑賞（知識・教養を深めるコース）

展示されている作品やその作家に関する説明を、学芸員やボランティアが行います。作品が制作された背景や、作者の人生を知ったうえで鑑賞すると、作品の異なる一面が見えてくることでしょう。児童・生徒の知識を深め、また造形の新たなレパートリーを増やしてくれる良い機会となるでしょう。

■実施場所：企画展示室、常設展示室、書道美術館

■対象：小学生・中学生

■所要時間：約30分～60分

### 3. 施設見学（美術館の役割を学ぶコース）

美術館に関する短時間の説明と、施設（バックヤード等）のご案内をします。

■実施場所：美術館・書道美術館 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約30分

### 4. 屋外モニュメント

ふくやま美術館のモニュメントマップを使います。美術館周辺のモニュメントを回って、シールを貼り、クイズに答えていく体験型の鑑賞プログラムです。

■実施場所：屋外 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約60分

※雨天の場合は、実施場所が変更になることもあります。



## いつ美術館に行くのがいいですか？

### 案①

季節ごとに、テーマの違う様々な特別展があります。目的に合わせてお選びください。

### 2024年度 特別展

期 間	内 容
春 4月6日(土) －6月2日(日)	<b>イタリアと日本の前衛 — 20世紀の日伊交流</b> イタリアと日本の美術交流は、明治時代に始まり、150年以上続いています。本展では、そうした中で、作家同士が個人的に親交を深めていく20世紀に光を当て、現在の日本に残されているイタリア美術作品のルーツをたどります。イタリアの未来派と東郷青児、神原泰とのやりとりが始まり、戦後イタリアを代表する作家ルーチョ・フォンタナと、戦後日本を代表する詩人で美術評論家の瀧口修造の親交、そしてそこからさらにほかの作家へと展開していく人間関係を紐解きながら、作品と資料約100点を通して、当時のイタリアと日本の姿を見つめなおします。
夏 7月13日(土) －9月29日(日)	<b>魔法の美術館リターンズ！一見てさわって遊ぶ超体感型ミュージアム</b> 不思議な光とアートの世界、福山へ再上陸！あなたが足を一歩踏み入ると、まるで自分が魔法使いになったかのような。自身の動きに合わせて表情を変える作品をはじめ、ボールを投げると花火のような音や光が次々に広がったり、指先を自由に動かすと、たくさんの花々が描かれ、一面に花畑が表れたり、見て、触って、直感的に楽しめる内容です。魔法のような体験が、みなさんをきっとワクワクさせることでしょう。
秋 10月12日(土) －12月15日(日) 前期：－11月10日(日) 後期：11月12日(火)－	<b>ふくやまの仏さま — 国宝明王院本堂本尊 33年ぶり特別公開記念</b> 今年、国宝明王院本堂の本尊「十一面観音菩薩立像」（国指定重要文化財 ※後期展示）が菩薩の縁数に基づき、33年に1度の御開帳を迎える特別な年です。本展は、この特別な機会を記念して、鞆町安国寺「木造阿彌陀如来及び両脇侍立像」（国指定重要文化財）をはじめ、福山市内に安置されている仏像、仏画、法具などの工芸品、資料など約80件により、福山で華麗に花開いた仏教美術の精華を多くの方々にご覧いただくものです。
冬 2025年 1月25日(日) －3月23日(日)	<b>神坂雪佳 — つながる琳派スピリット</b> 「琳派」は、江戸時代初期の本阿弥光悦、俵屋宗達に始まり、江戸中期の尾形光琳とその弟乾山、さらに江戸後期の酒井抱一、鈴木其一らにより受け継がれてきました。明治から昭和にかけて京都で活躍し、「光琳の再来」とも称された神坂雪佳（1866-1942）は、琳派に傾倒し、身の回りを美しく飾る意匠（デザイン）を生み出した図案家・画家です。本展は、装飾性豊かな琳派の美の系譜をたどりながら、約80件によるマルチアートの雪佳の多彩な活動を紹介します。

### 案②

## 所蔵品展も合わせて鑑賞ください。

所蔵品展では、ピカソやマルク・シャガールをはじめ、日本近代を代表する画家・岸田劉生が愛娘を描いた《麗子十六歳之像》、イタリア未来派のジャコモ・バッラ《輪を持つ女の子》といった色彩豊かな作品を年間を通してご覧いただけます。

児童・生徒が成長する過程で、繰り返し見ることでできる美術館の所蔵品は、美術鑑賞教育に好適といえましょう。

※都合により展示されていない作品もあります。

### 2024年度 所蔵品展

期 間	内 容
《春季》 4月3日(水)－6月23日(日)	<b>レアリスム — 「労働」のある風景 特集展示：受贈記念 南薫造新収蔵品展</b> 「労働」が表現された多様な作品を展覧することにより、近代における働く人々に向けられたまなざしを探ります。また第2室の特集展示では、日本近代美術を代表する広島出身の洋画家、南薫造の新収蔵品全39点を一挙初公開します。
《夏季》 6月27日(木)－9月29日(日)	<b>山水と風景 — 遠近表現の東西</b> 海や山河など自然を描いた「風景画」は、主として近代以降に西洋から日本にもたらされました。一方で中国から伝わる「山水図」の多くは、俗世を離れた理想郷を描いています。各作品の画面上に広がる世界を味わい、多様な風景表現に親しんでいただきたいと思います。
《秋季》 10月3日(木)－12月15日(日)	<b>形のユーモア — おもしろ彫刻大集合！</b> 立方体と三角錐を組み合わせたり、とんがりコーンやハートマークに見える形があったり、彫刻作品にはユニークな形がたくさんあります。隠された意味があるのか、ないのか。形の持つ可能性を探ってみましょう。
《冬季》 2024年1月2日(木)－3月30日(日)	<b>穴をのぞく／むすんでひらいて、またむすぶ</b> 穴から向こうを「覗」いたり、穴が「除」かれた様子を想像したり、様々な穴に注目した〈穴をのぞく〉と、「結び」という動作や言葉に焦点を当てた〈むすんでひらいて、またむすぶ〉。作品の新たな見かたを提案する2つの特集展示です。

※特別展・所蔵品展の会期・内容につきましては、都合により、急遽変更をさせていただく場合もあります。最新情報はふくやま美術館ホームページなどでご確認ください。